



中大型哺乳類の生息状況調査について

滝藤 由貴、竹原 真理、河野 円樹、葉山 雅泰
(環境省自然環境局生物多様性センター 調査科)

概要

近年、中大型哺乳類の人里への分布拡大及び出没増加等による農林業や生態系等への被害が社会問題となっている。中大型哺乳類5種（ヒグマ・ツキノワグマ・ニホンジカ・イノシシ・ニホンザル）を対象とした全国的な個体数推定を行うとともに、今後継続的に野生生物の生息情報を収集するための体制を維持していく上での課題の整理を行った。

手法

① 既存情報に基づく全国個体数推定

都道府県や研究者によってすでに報告されている生息状況調査などの既存資料を基に、各地域の個体数に関する情報を積み上げ、対象種ごとに全国個体数を推定する方法

② 階層ベイズ法による全国個体数推定

対象種の捕獲数等の情報をもとに、毎年自然及び捕獲により減少する個体群の変動をモデル化し、一定期間の全国個体数の変化を推定する方法

結果

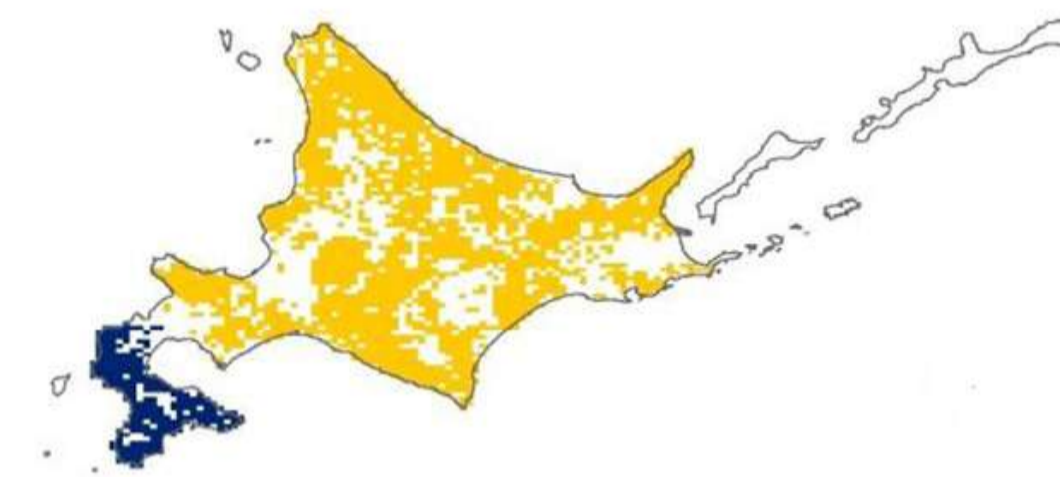
ヒグマ



100%

個体数調査の実施割合

凡例
調査年
1999年以前
2000年以降
調査の実施なし



個体数調査の実施状況

	推定個体数 (頭)	中央値 (頭)
①既存資料	1,771 ~ 3,628	2,700
②階層ベイズ法	887 ~ 20,597	3,423

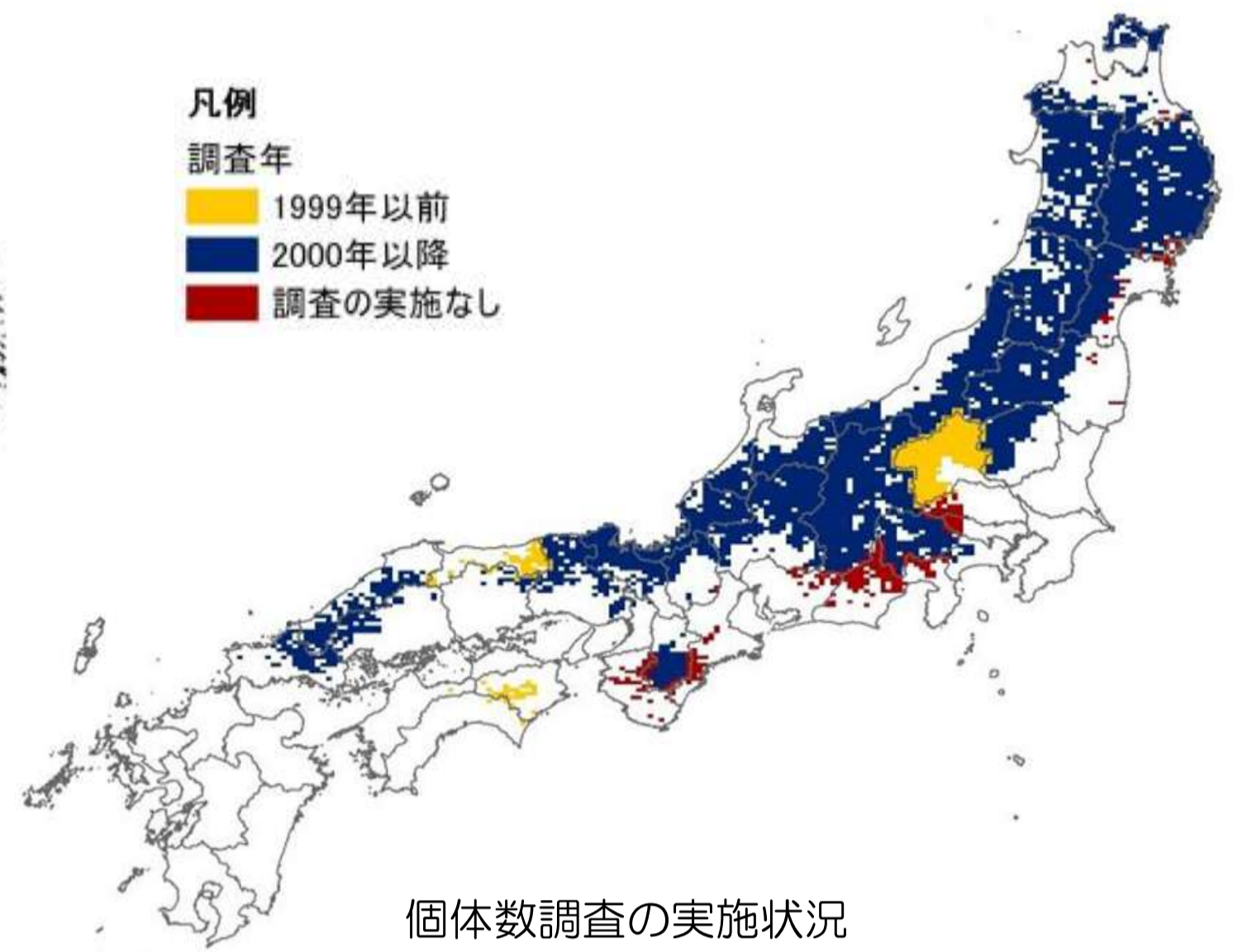
ツキノワグマ



84%

個体数調査の実施割合

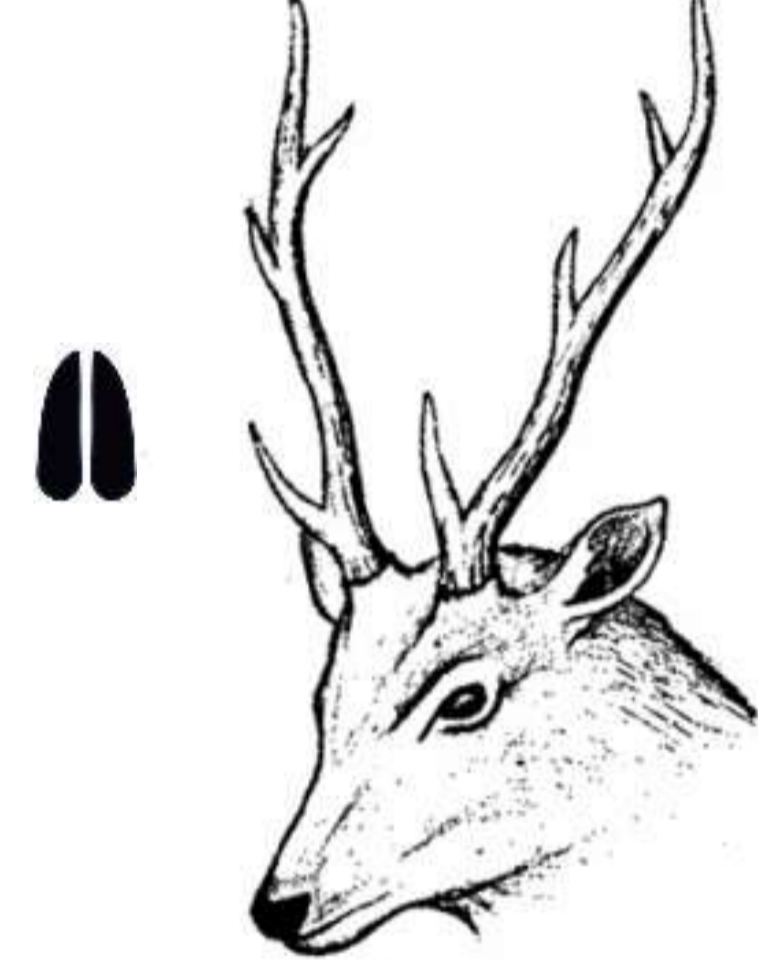
凡例
調査年
1999年以前
2000年以降
調査の実施なし



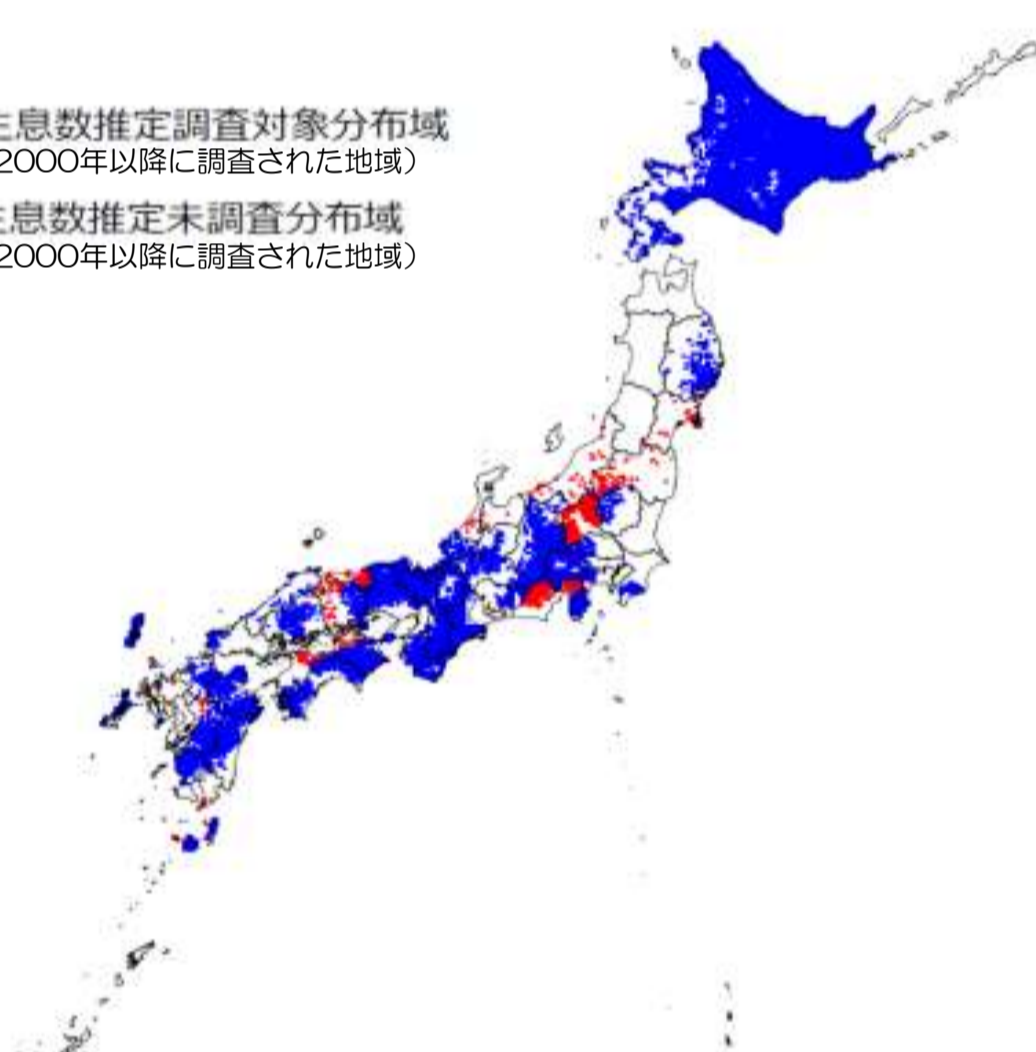
個体数調査の実施状況

	推定個体数 (頭)	中央値 (頭)
①既存資料	12,297 ~ 19,096	15,685
②階層ベイズ法	3,565 ~ 95,112	14,159

ニホンジカ



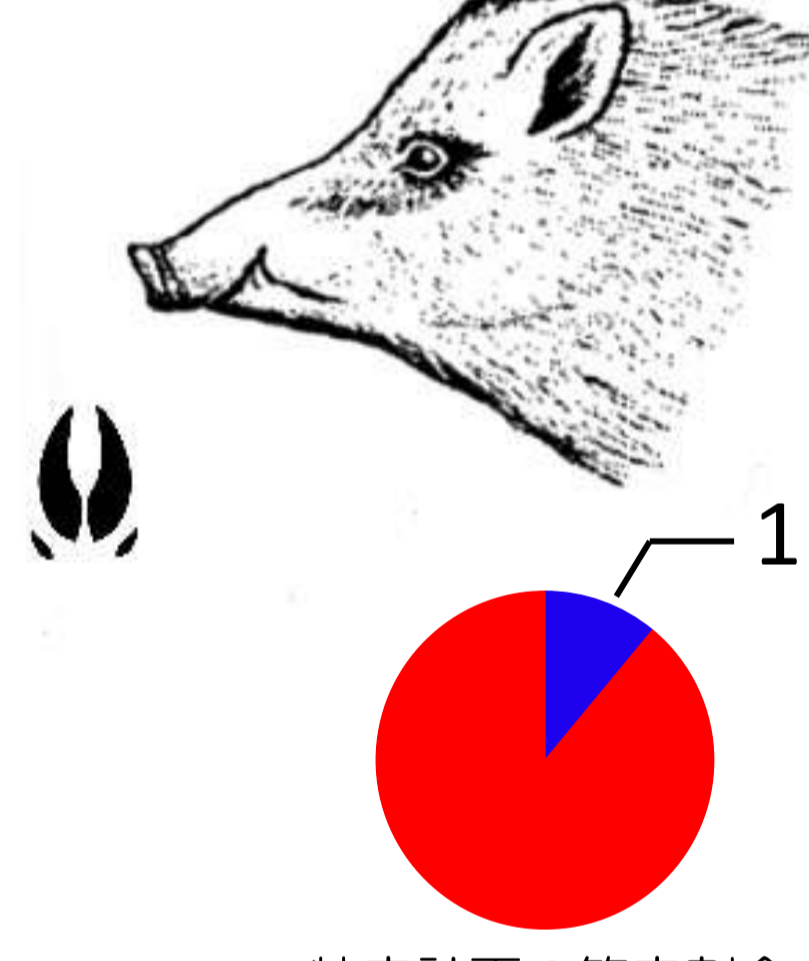
凡例
生息数推定調査対象分布域
(2000年以降に調査された地域)
生息数推定未調査分布域
(2000年以降に調査された地域)



個体数調査の実施状況

	推定個体数 (頭)	中央値 (頭)
①既存資料	954,224 ~ 1,811,934	1,342,584
②階層ベイズ法	684,971 ~ 8,597,522	1,686,294

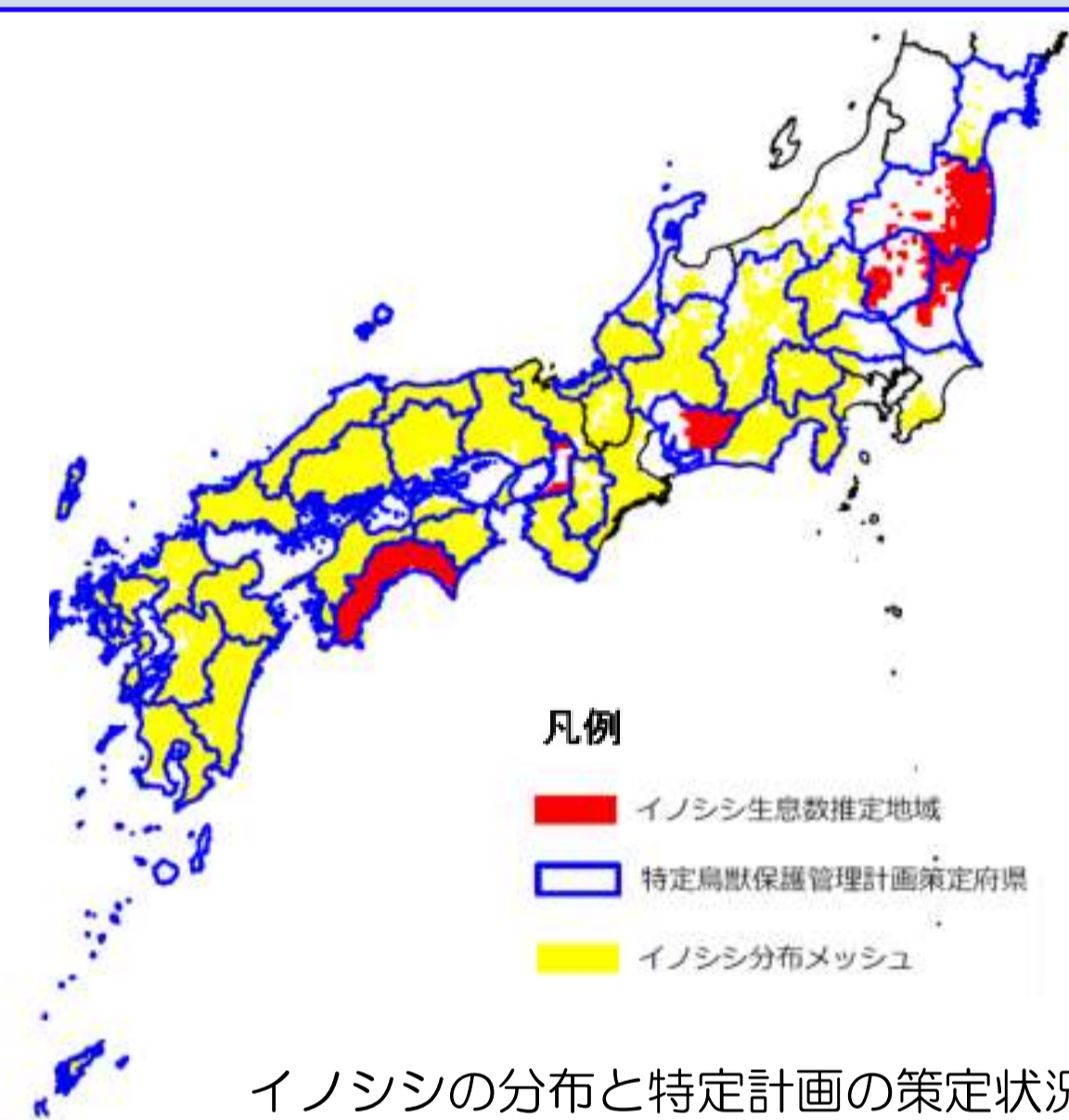
イノシシ



11%

特定計画の策定割合

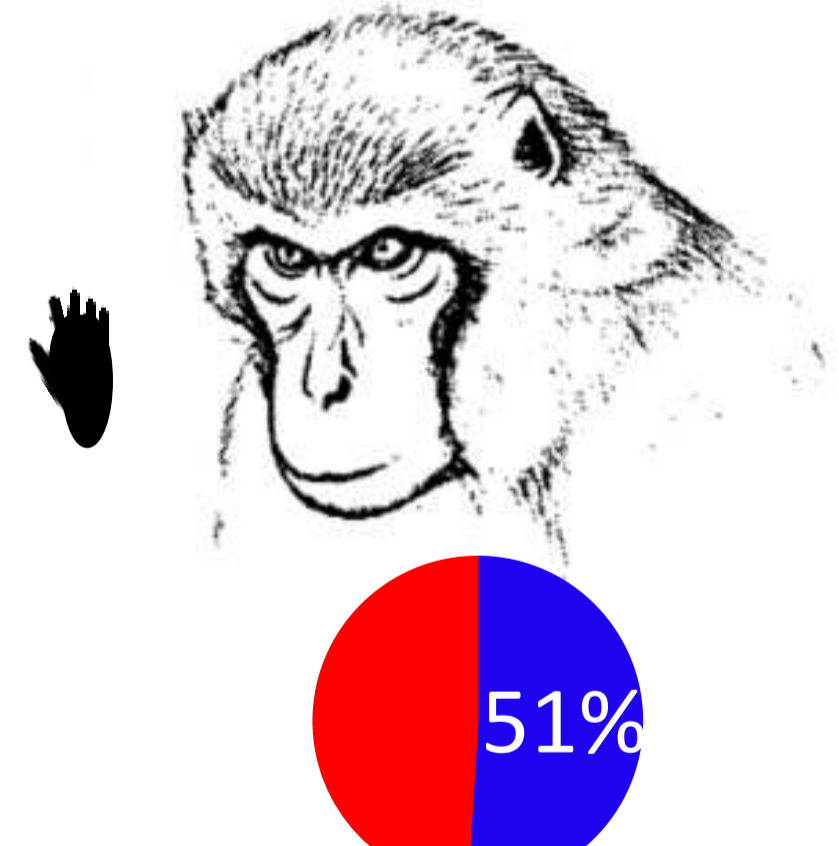
凡例
イノシシ生息数推定地域
特定鳥獣保護管理計画策定地域
イノシシ分布メッシュ



イノシシの分布と特定計画の策定状況

	推定個体数 (頭)	中央値 (頭)
①既存資料	— ~ —	—
②階層ベイズ法	223,120 ~ 1,207,428	417,205

ニホンザル



51%

個体数調査の実施割合

凡例
個体数調査メッシュ(2000年度以降に調査された地域)
情報あり
情報無し

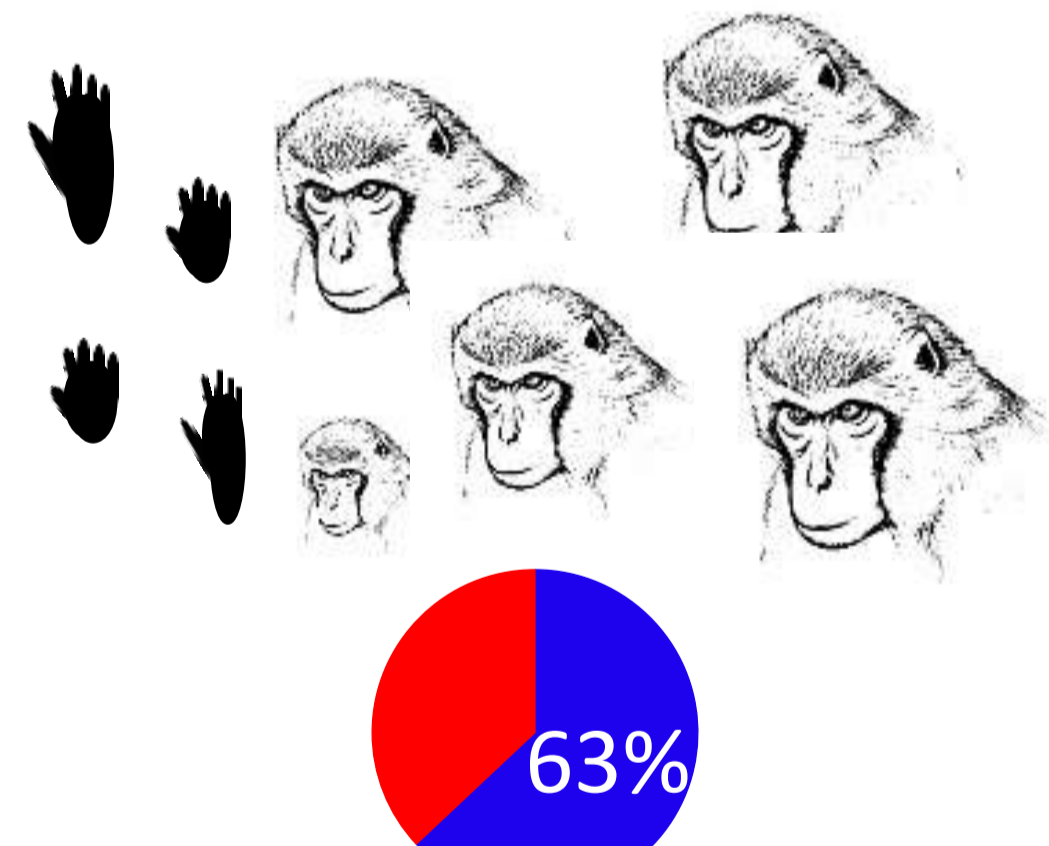


個体数調査の実施状況

	推定個体数 (頭)	中央値 (頭)
①既存資料*1	145,973 ~ 165,062	154,805
②階層ベイズ法*2	48,616 ~ 2,159,104	216,446

*1ハナレザルを除く *2ハナレザルを含む

ニホンザル (群れ)



63%

個体数調査の実施割合

凡例
群れ数調査メッシュ(2000年度以降に調査された地域)
情報あり
情報無し



個体数調査の実施状況

	推定群れ数	中央値 (群れ数)
①既存資料*1	3,025 ~ 3,149	3,069
②階層ベイズ法*2	— ~ —	—

*1ハナレザルを除く *2ハナレザルを含む

今後の課題

【生息動向を把握する上で重要なこと】

- 最新の個体数動向と推定誤差を知り、常に何年毎にどのような研究成果を出せるかを念頭に置きながら、計画的に長期間調査を続けること
- 個体群単位で全国的に情報を統一して調査すること

【生息情報収集案：専門調査員の配置による方法】

I 既存情報の収集と情報空白域の抽出

II 情報空白域における情報収集

10kmメッシュを1単位とし、それぞれの区画を担当する調査員を配置し、アンケートや聞き取り、現地調査による情報収集を実施

複数の調査員をとりまとめる統括担当者を配置し、調査実施方法の指導やとりまとめを実施



特定哺乳類
生息状況調査
HP

詳しくはこちら！



http://www.biodic.go.jp/kiso/15/tokudo_kiso.html

